

文学研究科教育学専攻・博士後期課程 専門分野・教員一覧

■教授

船津 守久 博士（医学） ※教育学専攻長 兼 臨床心理学コース長	
主な担当科目	●臨床心理学特殊講義A・B ●臨床心理学特殊研究Ⅰ～Ⅵ
研究内容	発達障害のある子どもの療育を臨床心理士、公認心理師として行っている。家族への支援を中心として、子どもの社会的な自立を目指すために必要な支援内容と支援方法について実践と理論を通して検証を行い、支援プログラムの作成と実践に取り組んでいる。

深澤 広明 博士（教育学） ※教育学・心理学コース長	
主な担当科目	●教育方法学特殊講義A・B ●教育学特殊研究Ⅰ～Ⅵ
研究内容	主眼的に「学びに向かう」態度を生成する「授業システム」の開発に取り組んでいる。「授業づくりと学級づくりの往還」や「教材研究をふまえた小集団活動の組織化」に焦点を当てた「学習集団づくりを志向する授業研究」と連動して研究している。

池田 智子 博士（心理学）	
主な担当科目	●教育心理学特殊講義A・B ●心理学特殊研究Ⅰ～Ⅵ
研究内容	取り組んでいる研究テーマは、大学生の学習観、大学生の自己調整学習におけるメタ認知の役割、心理学教育における批判的思考態度の育成、大学生の進路選択・決定過程におけるメタ認知の役割である。

澤田 英三 ※ 修士（文学）	
主な担当科目	●教育臨床心理学特殊講義A・B
研究内容	人の発達を支える現場に赴き、観察法やインタビュー法などの手法を用いて、現場で発達のからくりや支援の特徴を明らかにする。

徳永 隆治 ※ 修士（教育学）	
主な担当科目	●教科教育学特殊講義A・B
研究内容	体育科教育学専門。小学校体育科授業づくり論を展開し、特に教材論・方法論を中心に授業実践の在り方を追究している。現在は、授業参観・収録をもとにした授業分析により教師活動と児童の学習活動の関係性を追っている。

山内 廣隆 博士(文学)	
主な担当科目	●教育学特殊研究Ⅰ～Ⅵ
研究内容	これまでにヘーゲル哲学をドイツ観念論、とりわけフィヒテ哲学との関係で研究してきた。また、ドイツ環境思想の日本導入に尽力してきた。現在は、日本哲学を政治哲学的観点から研究している。

吉田 裕久 博士（教育学）	
主な担当科目	●教科教育学特殊講義A・B ●教育学特殊研究Ⅰ～Ⅵ
研究内容	国語科授業論（話すこと・聞くこと・書くこと・読むことの指導について目標・内容・方法・評価論を考究）、国語教育史（明治期以降の国語教育理論・実践史、戦後初期国語教科書、地方国語教科書を中心に展開）

※氏名横の「※」は研究指導の補助及び授業担当適格者を示す。